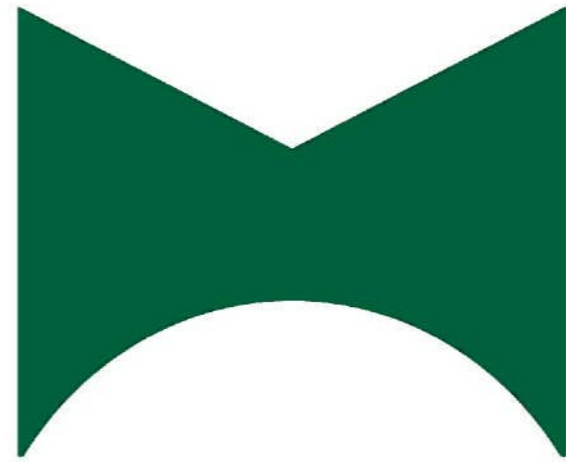


山都町 グランドデザイン

YAMATO TOWN GRAND DESIGN



山都町役場 山の都創造課

1. 計画策定の趣旨



1 計画策定の趣旨

1. はじめに

山都町は、阿蘇南外輪山から九州脊梁山地までを町域とし、地形的な変化に富み、豊かな自然に育まれた地域です。古くは熊本と日向を結ぶ交通の要衝として栄え、同じ地勢の中で、周辺農村と共に協働の精神を尊ぶ心豊かな地域社会を築いてきました。

町の総面積は 544.67 平方キロに及び県内の自治体で 3 番目に広い面積を有し、総面積の 72% を山林が占める中山間農山村地域です。古くから水稻を中心とした野菜・畜産・林産物の複合経営により農林業が主産業でしたが、近年では、冷涼な気候を活かし夏秋野菜の生産が盛んに行われています。

このような地理的条件や自然環境から町名を「山都町」「山の都」と命名し、将来にわたり山の都として繁栄するよう願いが込められています。

この町には、支えあいや創意と団結を象徴とする「通潤橋」、地域の人情や和を大切にす「文楽」、自然を敬い、神に感謝する「神楽」などに象徴されるように、農村社会の中で「自然に感謝し、支えあい一人ひとりを大切にす」という精神文化があります。この特性を町の活力として捉え、田舎で暮らすことの価値観を共有し、人間として本来の在り方を見失わない力強い地域社会を築き上げなければならないと考えます。

これからは自然に対する高い倫理観を持ちつつ、環境に負荷のかからない持続可能なまちづくりを全力をあげて創り出す必要があります。本計画は、緑豊かな自然の恵みを受けて先人たちが築いてきた歴史や文化を次代に伝えるために、九州中央自動車道の全線供用開始が与える効果や影響を考慮しながら「山の都」を目標に、取り組むべきビジョンを示したものです。

2. 計画の背景

本格的な人口減少時代の到来、また少子高齢化の進展により、これからの地域活力の維持向上のためには、これまでに無い「人口減少」を前提とした施策の展開が必要になってきます。町内で子どもを産み育てることができる環境を整えるとともに、子どもから高齢者まで安心・安全に暮らし輝けるまちづくりを推進する必要があります。

一方、国内に限らず世界的に見ても、観光は一大産業となっており、観光振興は、少子高齢化や地場産業の低迷に伴う地域社会の衰退を食い止め、コミュニティ再生を図るうえで、重要な施策のひとつと捉えられています。

九州中央自動車道の開通や町への企業進出、移住者の増加など現在を絶好の好機と捉え、「観光」をひとつの手段として、交流人口や関係人口による地域の賑わい創出と地域活性化を目指していかなければなりません。

①町の地勢

本町は、熊本県の東部、九州のほぼ中央に位置し、中山間地域の気候や環境等、その地域特性を活かした農林業を基幹産業としています。

歴史的には中世の阿蘇氏の本拠地として、また日向往還を通した生活物資の集散地として繁栄してきました。

町内には、国指定重要文化財の「通潤橋」、県指定重要無形文化財の清和文楽人形芝居、そして雄大な景観や美しい紅葉で知られる、蘇陽峡、緑仙峡、内大臣峡など、観光スポットも豊富で、県内外から多くの観光客が訪れています。

【キーワード】

- 「叡智」…通潤用水（通潤橋の建設）、円形分水、白糸台地 等
- 「伝統」…清和文楽、神楽
- 「栄華」…阿蘇氏の繁栄、「浜の館」、「棒踊り」
- 「歴史」…日向往還（熊本市～延岡市）、八朔祭、大造り物

②道路ネットワーク

熊本と宮崎を結ぶ九州中央自動車道の整備が推進され、平成 30 年 12 月に「山都中島西 IC」が供用開始し、引き続き「矢部 IC（仮称）」も整備されています。高速道路の開通により広域的な連携や、人流・物流の活発化が期待され、観光面など地域活性化の好機として対外的な町のあり方を検討する必要があります。

また、本町の国道 218 号を基点とし、阿蘇郡南阿蘇村の国道 325 号に至る主要地方道矢部阿蘇公園線の早期整備も求められています。

上述 2 路線の実現は、近年頻発する自然災害に対する防災機能の強化や、地方創生の機運が高まりを見せる中、「歴史回廊の形成」など観光振興に寄与することも期待されており、これらを踏まえて構想を策定する必要があります。

③国選定重要文化的景観

2008 年 7 月を契機として 2010 年 2 月までの期間に「通潤用水と白糸台地の棚田景観」が全国 7 例目の国選定重要文化的景観として文部科学大臣により選定されました。近世から受け継がれている通潤用水と棚田が、絶え間ない営みのもとに現在まで維持されてきたことが評価されたものです。先人の努力により継承された唯一無二の資源は、本町の地域らしさを形成する上での重要な要素であり、これらを構想に反映することが望まれます。

④山の都の将来像の見える化

本町では「第 2 次山都町総合計画 2015-2024」を策定し、これに伴い分野ごとの個別計画の見直しも随時調整されています。様々な計画の見直しを本計画に反映しながら、地域住民など誰にでも分かるように可視化し、地域住民との協働のもと、推進することを望んでいます。

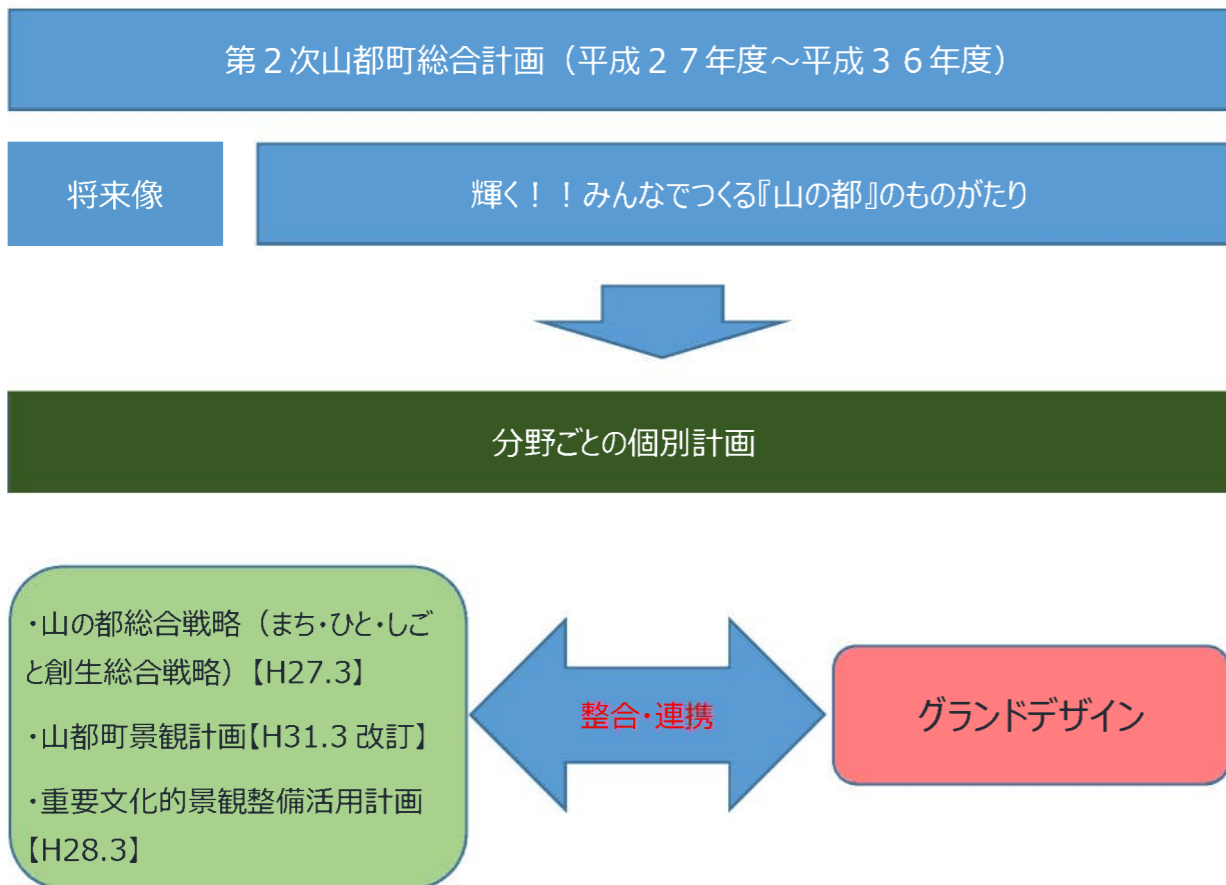
1. 計画策定の趣旨

3. 第2次山都町総合計画におけるランドデザインの位置付け

今回の山都町ランドデザインは、第2次山都町総合計画の将来像である「輝く！！みんなで作る『山の都』のものがたり」を実現すべく、本町が抱える課題に対し、九州中央自動車道矢部IC（仮称）の供用開始に合わせて、本町の豊富な観光資源の活用によって克服し、町全体の地域活力の再生へつなぐまちづくりの方向性を示したものです。

当面、短・中期に取り組むべきものを示したものであり、総合計画を補完する個別計画に位置づけます。

状況に応じて柔軟な運用を図るとともに、関連する庁内関連計画と整合を図りつつ、具体的な実施方法については、順次調整していきます。



2. 山都町の現況・取り巻く社会動向

2 山都町の現況・取り巻く社会動向

【社会動向】

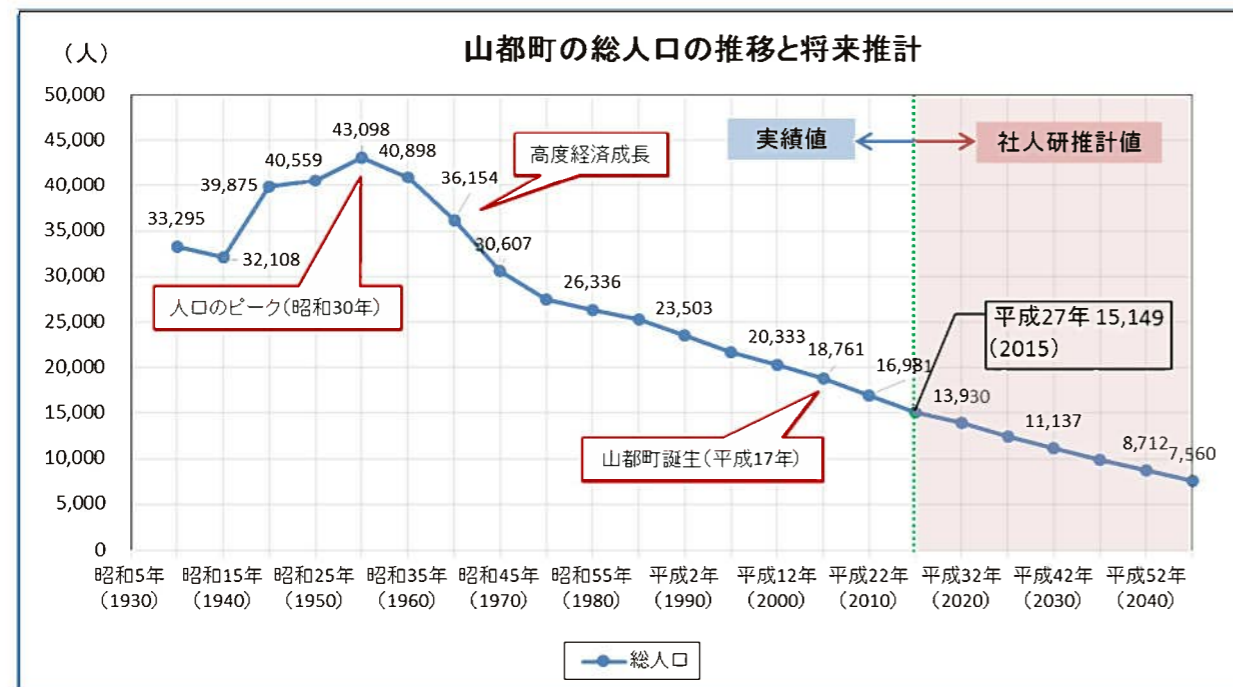
(1)人口減少・少子高齢化の進行

本町の人口は、平成 27 (2010) 年 10 月に行われた国勢調査では 15,149 人となっています。国立社会保障・人口問題研究所 (社人研) が平成 25 年 3 月に公表した「日本の地域別将来推計人口」によると、平成 27 (2015) 年以降も人口の減少傾向は続き、平成 52 (2040) 年には 8,712 人にまで減少すると推計されています。これは、平成 22 (2010) 年の 16,981 人と比較すると、8,269 人 (48.7%) と、5 割近く減少するということになります。[図 1]

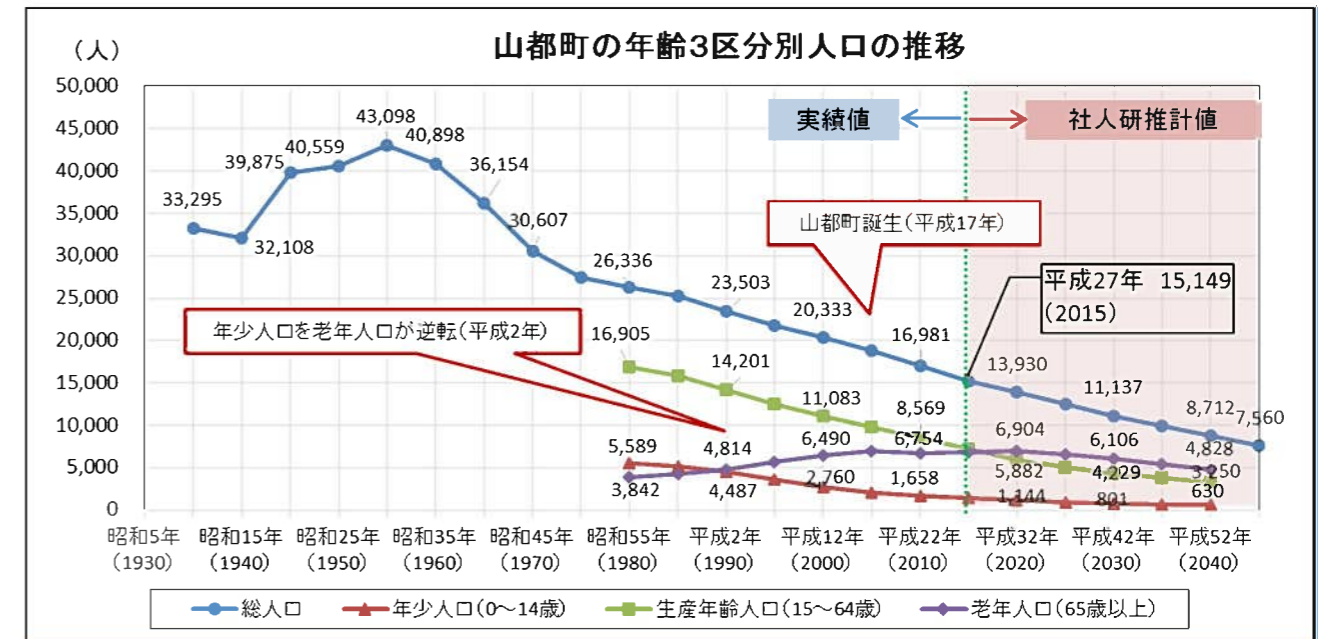
また、本町の年齢 3 区分別人口のうち、生産年齢人口 (15~64 歳) は、昭和 55 (1980) 年の 16,905 人から平成 22 (2010) 年の 8,569 人と減少を続けています。社人研推計によると、生産年齢人口は今後も減少傾向が続き、平成 52 (2040) 年には 3,250 人にまで減少すると予測されています。[図 2]

本町の自然増減 (出生数-死亡数) を見ると、昭和 50 (1975) 年から平成 22 (2010) 年にかけて、死亡数は 263 人から 270 人とほぼ横ばいで推移していますが、出生数は 383 人から 104 人と 7 割以上減少しています。昭和 60 (1985) 年までは、出生数の方が死亡数より多い「自然増」でしたが、平成 2 (1990) 年以降死亡数が出生数を上回る「自然減」の時代に入っています。[図 3]

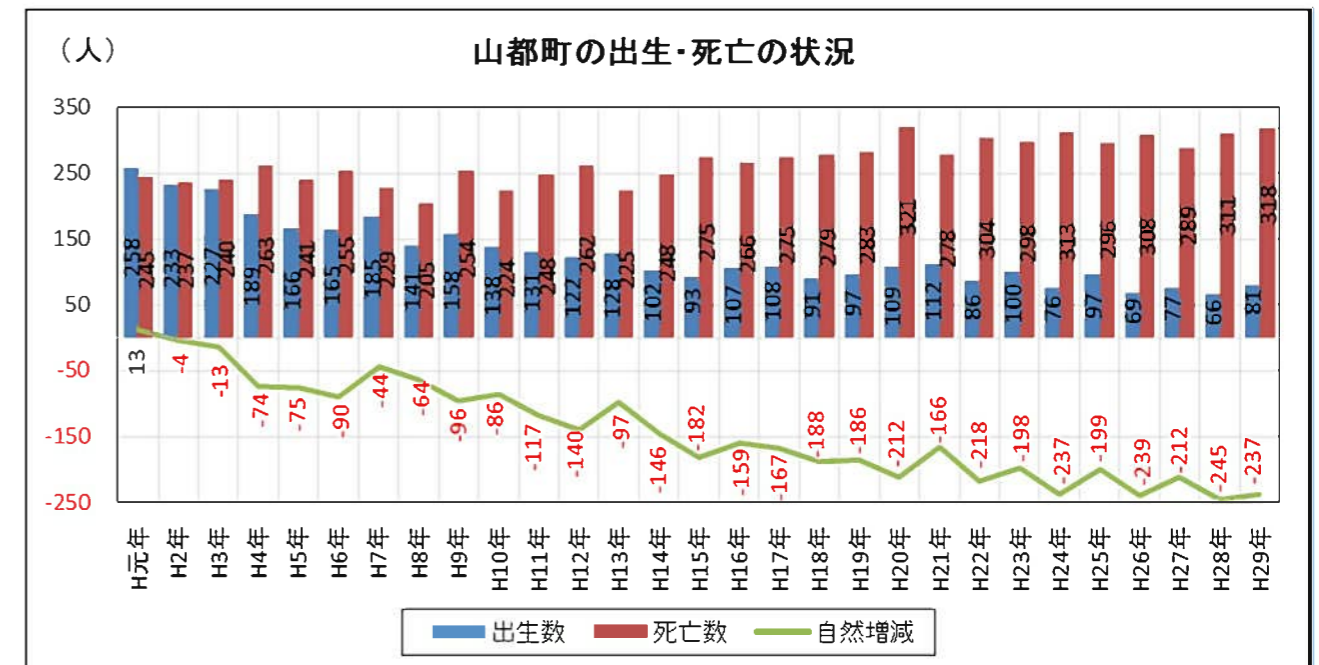
[図 1] (出典：平成 22 (2010) 年までは国勢調査、平成 27 (2015) 年以降は国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(平成 25 年 3 月推計)」)



[図 2] (出典：山都町人口ビジョン)



[図 3] (出典：住民基本台帳)



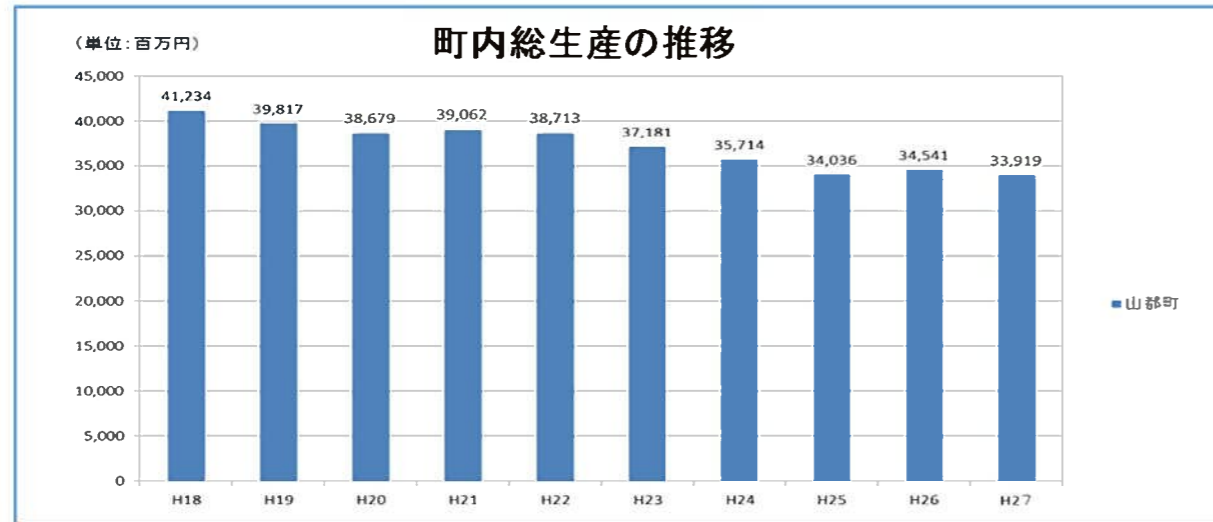
2. 山都町の現況・取り巻く社会動向

(2) 経済成長の低下・産業構造の変化

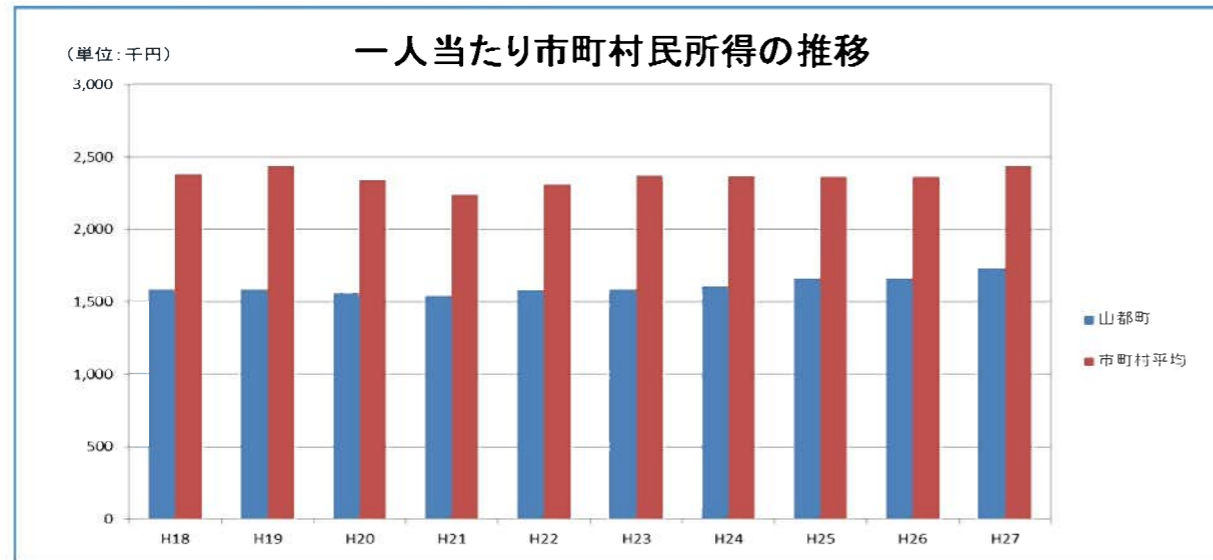
本町の経済活力となる町内総生産（GDP）は〔図4〕のとおり、平成18年度から減少傾向にあります。

また、町民一人あたりの町民所得についても〔図5〕のとおり、微増傾向にはあるものの県内市町村の平均よりも大きく下回っている状況です。

〔図4〕（出典：市町村民経済計算）



〔図5〕（出典：山都町勢要覧（資料編））

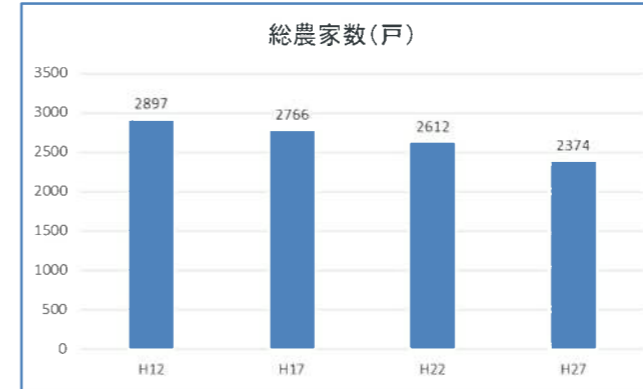


1) 農業

基幹産業である農業については、〔図6〕のとおり、総農家数は減少傾向が続いています。

また、平成27年農林業センサス〔図7〕では、農業従事者の過半数は65歳以上となっており、就業者の高齢化と担い手不足、耕作放棄地の増などが課題となっています。

〔図6〕（出典：農林業センサス）



〔図7〕出典：農林業センサス

○基本データ(H27 農林業センサス) (人・戸・ha)

総人口	総農家数	耕地面積	経営耕地面積	耕作放棄地
15,164	2,374	5,200	3,474.81	416.89
販売農家	専業農家	1種農家	2種農家	自給的農家
1,878	668	316	894	496

※農業従事者の過半数は65歳以上で、高齢化が進んでいる。
(60歳以上が67%となっている。5・10年後が不安)
第1次産業就業率:38.9%(県平均10.5%)(県内市町村2位の高率)
第2次産業就業率:16.1%(県平均21.2%)
第3次産業就業率:45.0%(県平均68.4%)

◎農業従事者の割合が多く、基幹産業となっている。

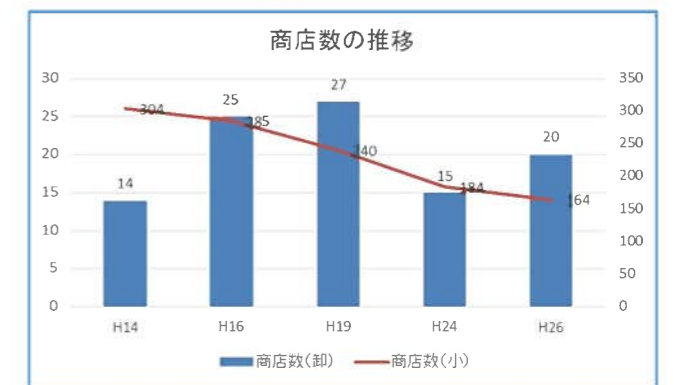
2) 工業・商業

工業については、〔図8〕のとおり、事業所、従業員数ともに減少傾向にあります。また、商店数についても〔図9〕のとおり卸商店、小売商店ともに減少傾向にあります。一方で、近年、複数の企業が進出しています。引き続き、企業誘致やサテライトオフィスの誘致など進めていく必要があります。

〔図8〕（出典：工業統計）



〔図9〕（出典：商業統計）



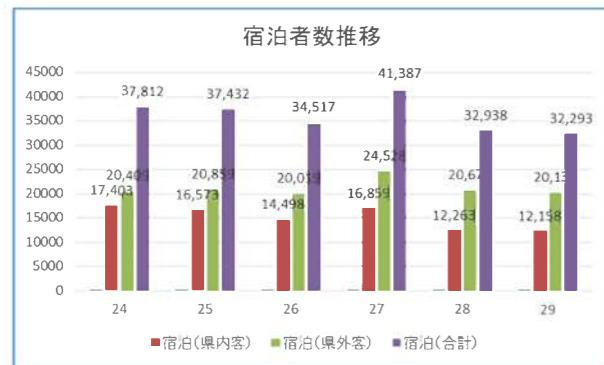
2. 山都町の現況・取り巻く社会動向

(3) 観光交流の多極化

〔図10〕、〔図11〕にあるように、本町の観光客の入込数は平成27年まではほぼ横ばいだったものの、平成28年の熊本地震による影響で減少に陥りました。同様に、主な観光施設〔図12〕の入込客数も平成28年は減少となりました。

高速道路の開通により、豊富な山都町の観光資源〔図13〕を活かした更なる活性化を期待します。

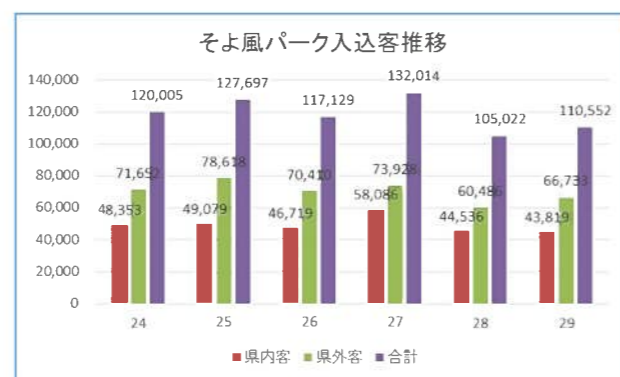
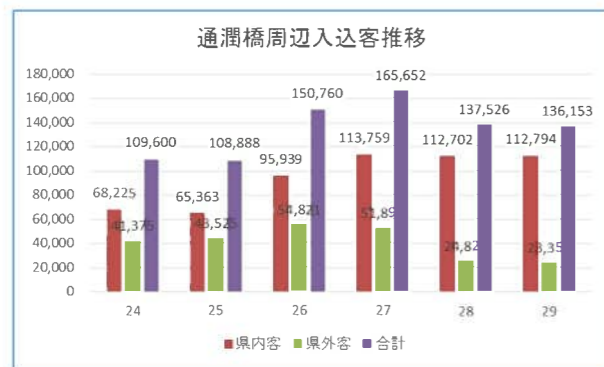
〔図10〕（出典：熊本県観光統計調査）



〔図11〕（出典：熊本県観光統計調査）

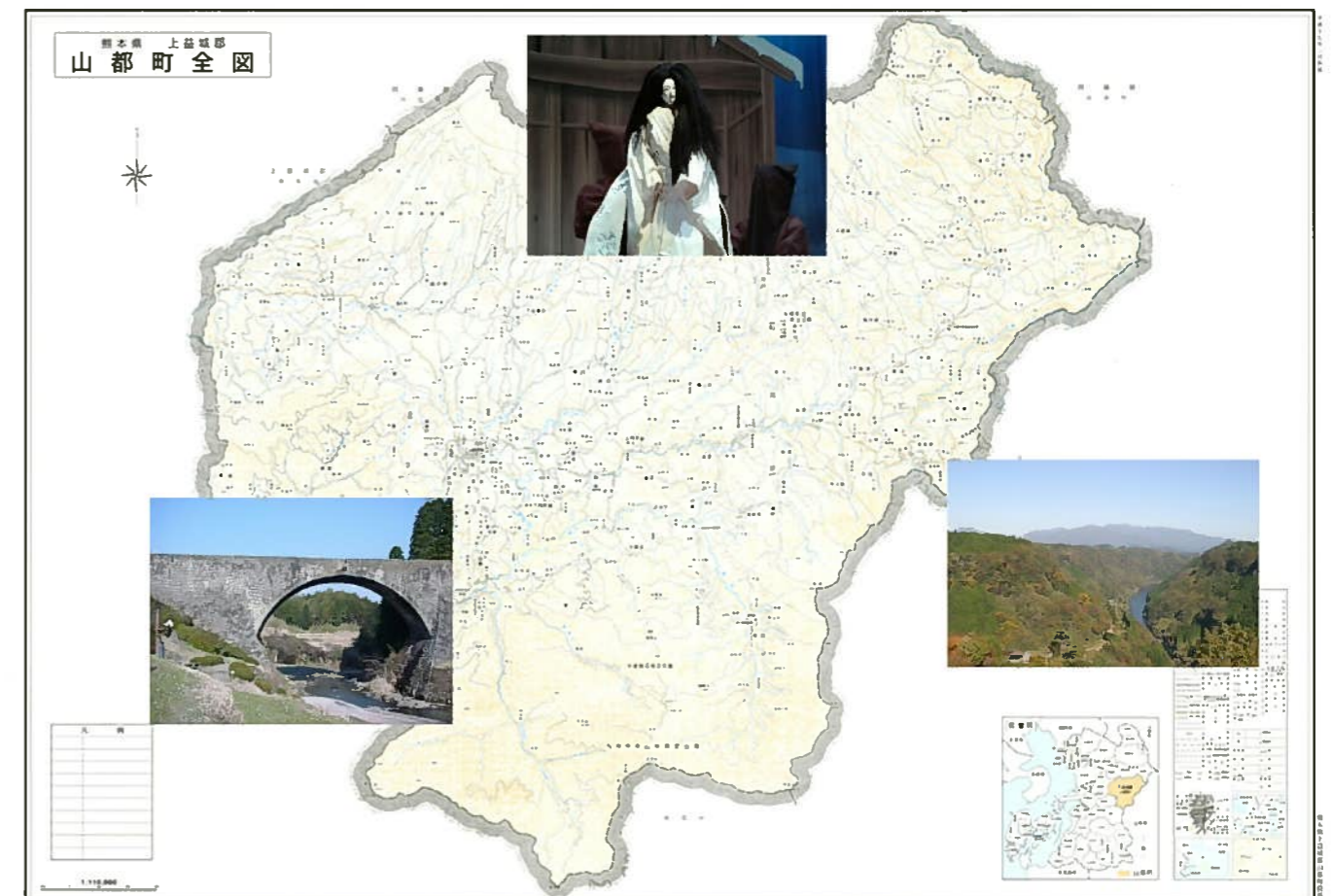


〔図12〕（出典：熊本県観光統計調査）



〔図13〕

自然	観光施設
池尻の唐傘松	道の駅「通潤橋」
蘇陽峡	道の駅「そよ風パーク」
鮎の瀬大橋	道の駅「清和文楽邑」
緑仙峡	清和高原天文台
鶴の子滝	
五老ヶ滝	
	宿・キャンプ場
	国民宿舎「通潤山荘」
	清流館
	猿ヶ城キャンプ村
	井無田高原キャンプ場
	服掛松キャンプ場
	歌瀬キャンプ場
	緑仙峡フィッシングパーク
	青葉の瀬
歴史文化・石橋	
通潤橋	
円形分水	
清和文楽	
通潤橋史料館〔歴史文化・石橋〕	
聖橋	
浜町橋	
金内橋	



3. 山都町の目指すべき将来の方向



3 山都町が目指すべき将来の方向

本町の地域特性を活かしながら、本町の地方創生にあたって具体的に取組むべき方向性を示すため、4つの政策分野ごとに、基本目標及び取組みを設定しています。

基本目標① 山の都の特性を活かした産業振興により雇用の場を創る

- ・産業振興・雇用創出に向けての取組み

基本目標② 暮らしやすい山の都に、観光、移住・定住等の人の流れを創る

- ・移住・定住推進に向けての取組み

基本目標③ 山の都での結婚・出産・子育ての希望を叶える

- ・結婚・出産・子育てしやすい環境づくりに向けての取組み

基本目標④ 山の都での健康で安心な暮らしを実現する

- ・自立した地域づくりに向けての取組み

(出典:「山の都総合戦略の(目指すべき将来の方向)」)

4. グランドデザインに求められる視点



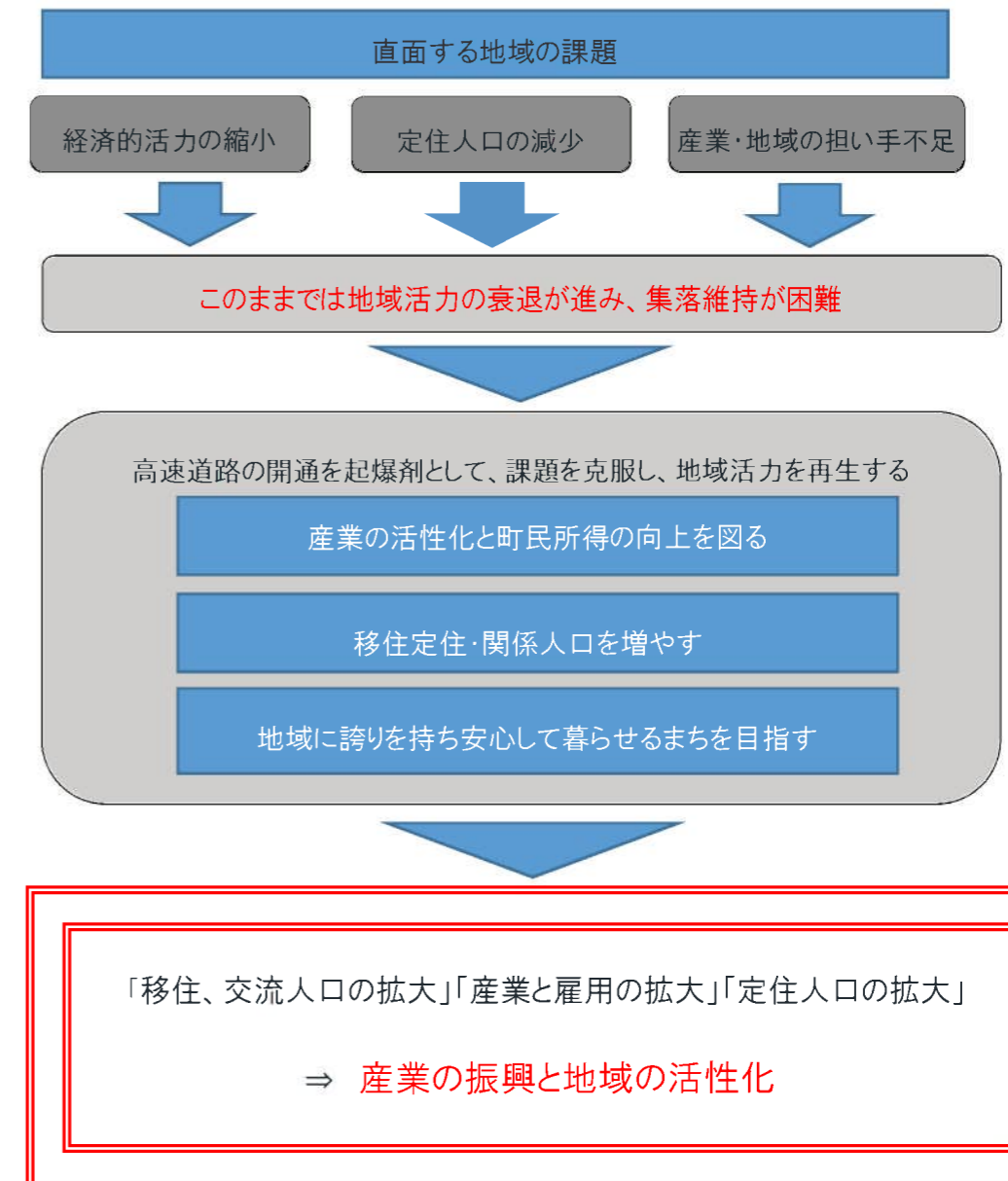
4 グランドデザインに求められる視点

【重点課題】

- ①経済的活力の縮小
- ②定住人口の減少
- ③産業・地域の担い手不足

上に示した重点課題により相乗的に地域活力の減退が進む中、新たな地域活力を再生させる取組みが急務となっています。

グランドデザインでは、これらの直面する課題を九州中央自動車道矢部IC（仮称）の供用開始に合わせて、本町の観光資源の活用によって克服し、町全体の地域活力の再生へつなぐまちづくりの方向性を示し、行政、地域、企業・団体、町民が一体となって取り組むことを目指します。



5. グランドデザインの具体的な戦略展開

5 グランドデザインの具体的な戦略展開

1. 戦略シナリオ 1 「ゾーン・拠点の整理」

□自然環境・集落環境調和ゾーン

豊かな自然が残り自然環境が良好な地域で、集落と農地、自然景観が保たれた地域。訪れる人の心を癒し、農村の原風景が残る地域。

□農業振興・農村集落調和ゾーン

水田や畑作地帯で、本町らしい田園風景や自然環境と調和した景観が保たれた農業集落地域を形成。

□市街地ゾーン

町の中心地には商業系施設の集積を図り、住民が集う地域内交流空間や観光客が訪れる観光交流空間を形成。

□自然環境保全ゾーン

九州中央山地国定公園、矢部周辺県立自然公園にあたり、豊かな自然を保全する地域。登山やツーリングを楽しむレクリエーション拠点でもある。

□観光、交流、レクリエーション拠点（施設）

通潤橋、道の駅「通潤橋」、やまと文化の森、国民宿舎「通潤山荘」、八朔祭りもの小屋、鮎の瀬大橋、道の駅清和文楽邑、清和高原天文台、道の駅「そよ風パーク」

□歴史文化交流拠点

清和文楽館、馬見原の街並み、小一領神社、男成神社、大川阿蘇神社、幣立神宮

□自然、レクリエーション拠点

猿ヶ城キャンプ村、井無田高原キャンプ場、青葉の瀬交流促進施設、緑仙峡キャンプ場・清流館、服掛松キャンプ場、目丸山、国見岳、天主山、三方山、遠見山、矢筈岳

2. 戦略シナリオ 2 「地域産業の活性化」

★重点整備地域での観光需要拡大に向けた環境整備

地域産業の活性化を目指し、観光集客力の拡大から観光消費による収益力拡大を図ります。

●市街地ゾーン

訪れたい観光地としての魅力向上

- 山都町へ訪れた観光客を浜町商店街周辺、清和文楽邑周辺、馬見原商店街周辺へ回遊する仕組みづくりを行い、訪れてみたい観光地として集客効果を高めます。
- 商店街の空き店舗等を活用した新たな起業や店舗改修を支援し、個店の魅力向上を図ります。
- レンタサイクル等を整備し、商店街を含めた周遊コースを回るなど滞在時間の延長を図ります。

●観光、交流、レクリエーション拠点

観光客に満足感を与える販売、サービス拠点としての展開

- 来訪者の動機付けとなる観光拠点の改修整備をはじめ、観光案内業務の充実やサイン整備により集客効果を高めます。
- 集客力の拡大を観光消費に繋げていくために、新商品の開発や地場産品の販売、飲食等のサービスを強化します。
- 子育て世代や若者が集える広場（公園、アスレチック広場）の整備を行い、滞在時間の延長を図ります。
- 家族連れ、シニア層をターゲットとしたグランピングが注目を集めており、その可能性を探ります。

5. グランドデザインの具体的な戦略展開

● 歴史文化交流拠点

江戸時代から伝わる農村伝統芸能の魅力向上
パワースポットとしての寺社仏閣を対外的に広く周知

- 九州で唯一の人形浄瑠璃専用劇場であり、観劇のほか三業（太夫+三味線+人形遣い）の体験やこの劇場でしか見ることのできない素朴さをPRしていきます。
- 寺社仏閣巡りは根強い人気があり、パワースポットとして広く周知します。

● 自然、レクリエーション拠点

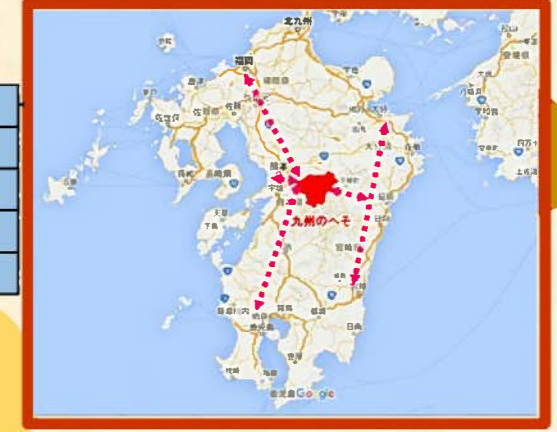
自然体験を通して、山都町の魅力を発信

- 快適なキャンプ場として人気がありますが、更なる施設整備の充実を図り、サービス向上に努めます。
- グランピングが全国的に注目を集めており、その可能性を探ります。
- 農業体験や野外体験のできるメニューを開発し、山都町の魅力を発信します。

1 戦略シナリオ 1「ゾーン・拠点の整理」



山都町全体図



自然
池尻の唐傘松
蘇陽峡
鮎の瀬大橋
緑仙峡
鶉の子滝
五老ヶ滝

観光施設
道の駅「通潤橋」
道の駅「そよ風パーク」
道の駅「清和文楽邑」
清和高原天文台

歴史文化・石橋
通潤橋
円形分水
清和文楽
通潤橋史料館 [歴史文化・石橋]
聖橋
浜町橋
金内橋

宿・キャンプ場
国民宿舎「通潤山荘」
清流館
猿ヶ城キャンプ村
井無田高原キャンプ場
服掛松キャンプ場
歌瀬キャンプ場
緑仙峡フィッシングパーク
青葉の瀬



福岡
長崎

熊本駅

至 阿蘇

阿蘇
大分

大分

東九州自動車道

九州縦貫自動車道

九州中央自動車道
計画段階評価完了
(蘇陽～高千穂)

九州中央自動車道
計画段階評価中
(矢部～蘇陽)

インバウンド

有明海

八代港

鹿児島

宮崎

延岡

五ヶ瀬
ハイランド
スキー場

椎葉

重要文化的景観エリア

鮎の瀬大橋 猿ヶ城キャンプ村

矢筈岳

遠見山

天主山

国見岳

目丸山

6. 九州中央自動車道矢部 I C（仮称）の開通を見据えた整備計画



6 九州中央自動車道矢部IC(仮称)の開通を見据えた整備計画

九州中央自動車道矢部 I C（仮称）の開通を見据え、当面、以下の4箇所について整備を行う

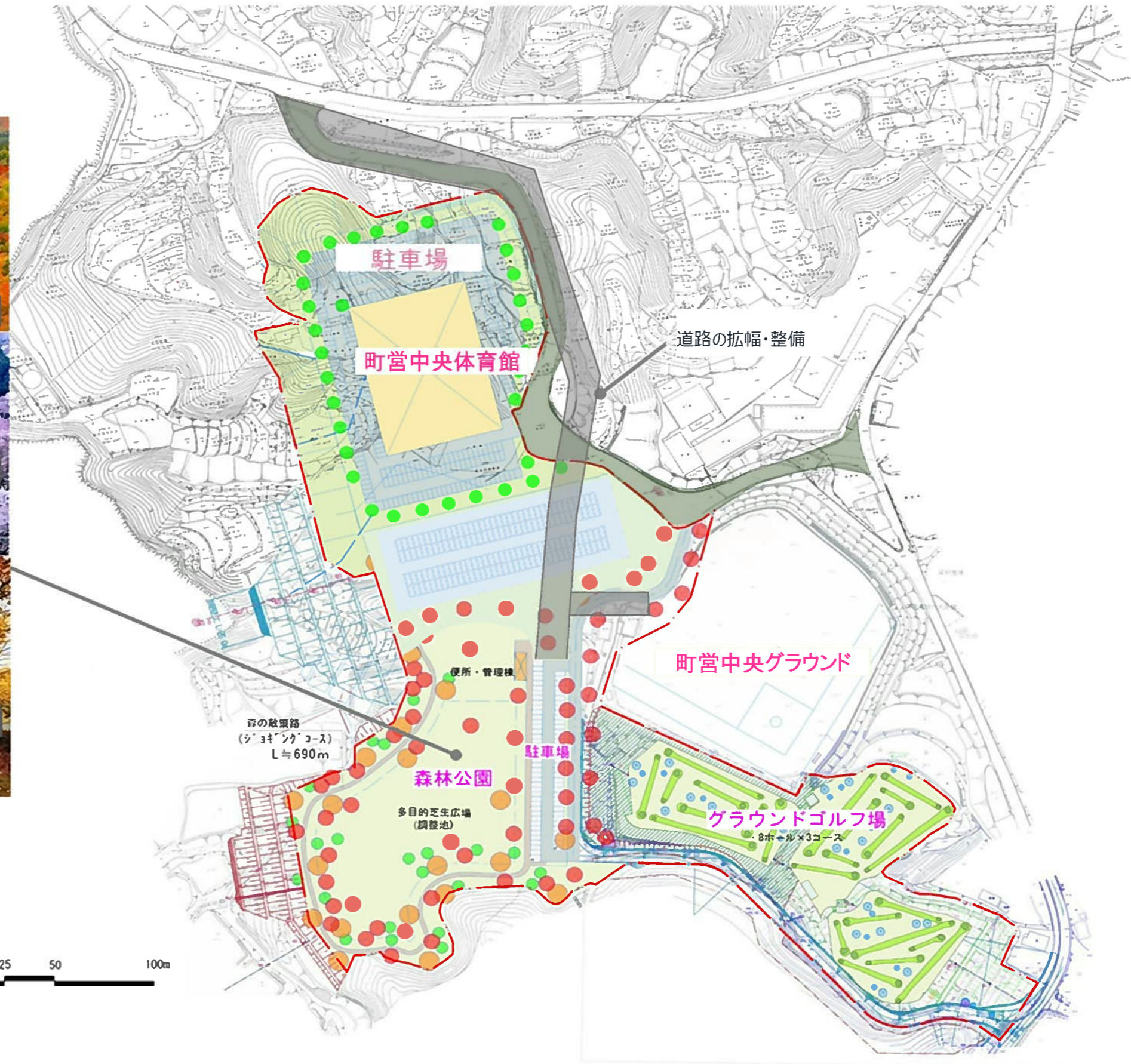
項目	矢部IC(仮称)出口付近	町営中央グラウンド周辺	通潤橋周辺	アクセス道路
コンセプト	新「道の駅」を整備し、地域経済の活力向上を目指す	運動機能といこいの場が一体となった公園を整備し、住民の健康保持増進を目指す	通潤橋見学者の二次的利用を促進し、滞在時間の延長を目指す	通潤橋や町内への利便性・回遊性を高める
画 図				
概 要	<ul style="list-style-type: none"> 物産販売施設の整備（観光案内の充実、農産物、特産物の販売） 高速バス乗り場の整備 	<ul style="list-style-type: none"> 町営中央体育館 グラウンドゴルフ場 森林公園等整備（総合運動公園） 周辺道路の拡幅・整備 アスレチック広場 	<ul style="list-style-type: none"> 多目的イベント広場、遊具 アスレチック広場 駐車場の整備（体育館跡、有料駐車場へ） 虹の通潤館改修（道の駅返上） 城山周辺、遊歩道の整備、景観整備 五老ヶ滝周辺整備 文化的景観との調和 	<ul style="list-style-type: none"> 国道 218 号線からのアクセス道路の整備 道路の新設、既存道路の拡幅を含め緊急度、費用対効果を検証し、順次整備 ①国道 218 号～千滝橋ルート ②国道 218 号～役場直進ルート ③国道 218 号～矢部高校西側ルート
特 徴	<ul style="list-style-type: none"> 町外からの来客者の集客の拠点となる 	<ul style="list-style-type: none"> 運動機能が 1 箇所に集約され、利用の効率化が図られる 	<ul style="list-style-type: none"> 多目的広場を活用したイベント開催等、多様な利活用・運営が可能となる 通潤橋見学者の二次的利用が促進され、滞在時間が延長される 	<ul style="list-style-type: none"> 高速道路出口からスムーズに町内への誘導が図られる
概算事業費		588,000 千円（21,000 円/m ² ） ※体育館・体育館付属駐車場・グラウンドゴルフ場を除く	506,000 千円（23,000 円/m ² ）	<ul style="list-style-type: none"> ①国道 218 号～千滝橋ルート 425,000 千円 ②国道 218 号～役場直進ルート 1,036,000 千円 ③国道 218 号～矢部高校西側ルート 829,700 千円
その他	<ul style="list-style-type: none"> 浜町町内への回遊への取り組み →商店街、文化の森、大造り物小屋 	<ul style="list-style-type: none"> 浜町町内への回遊への取り組み →商店街、文化の森、大造り物小屋 	<ul style="list-style-type: none"> 浜町町内への回遊への取り組み →商店街、文化の森、大造り物小屋 	<ul style="list-style-type: none"> 浜町町内への回遊への取り組み →商店街、文化の森、大造り物小屋

●通潤橋周辺



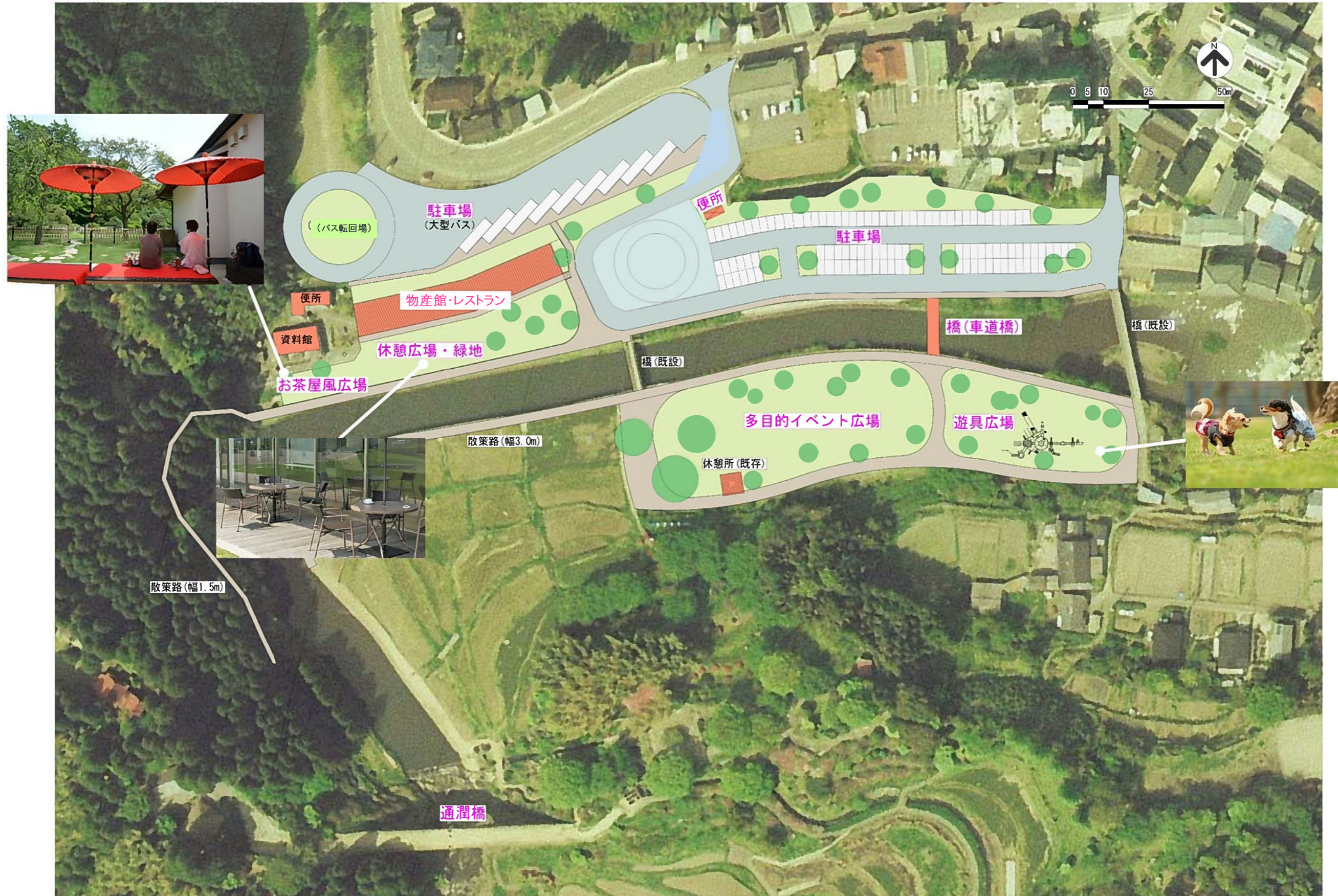
6. 九州中央自動車道矢部IC（仮称）の開通を見据えた整備計画

●町営グラウンド周辺



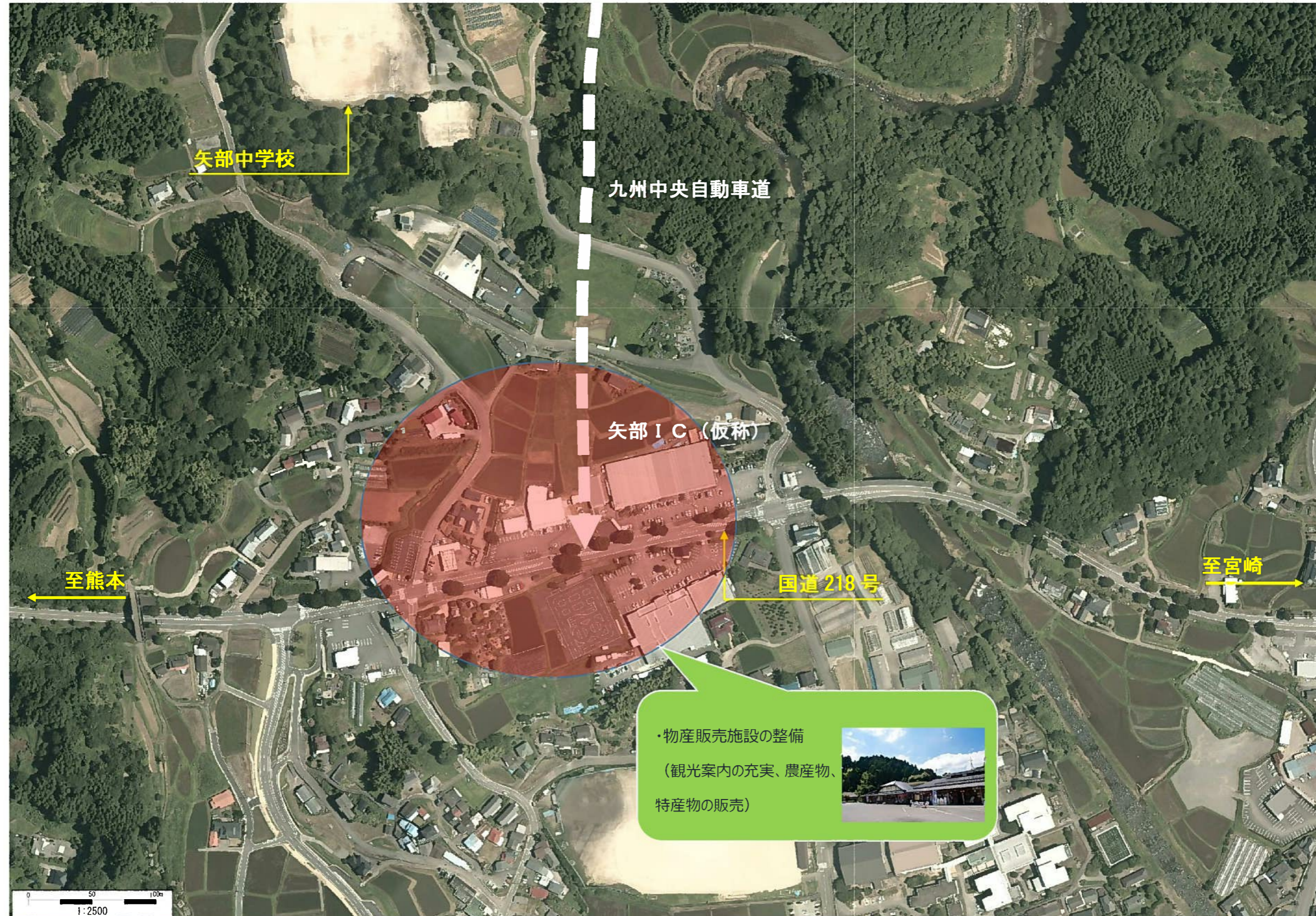
6. 九州中央自動車道矢部 I C (仮称) の開通を見据えた整備計画

●通潤橋周辺



6. 九州中央自動車道矢部 I C（仮称）の開通を見据えた整備計画

● 矢部 I C（仮称） 出口付近



6. 九州中央自動車道矢部 I C（仮称）の開通を見据えた整備計画

●アクセス道路



7 事業スケジュール

事業等	区分	2019年 (H31)	2020年 (H32)	2021年 (H33)	2024年	備考	
矢部 IC (仮称) 出口付近	物産販売施設整備	← 構想計画	← 事業計画策定・設計	← 施設整備			
			← 用地整備				
町営中央グラウンド周辺	町営中央体育館	← 調査・測量設計	← 造成・建築基本設計・実施設計・建築工事・外構工事				
	グラウンドゴルフ場		← 実施設計・整備工事				
通潤橋周辺	プール・高齢者活動センター跡地	← 解体・基本設計	← 実施設計	← 整備工事		H32.3 通潤橋復旧完了	
	遊歩道・景観整備	← 基本設計	← 整備工事				
町営中央体育館へのアクセス道路整備			←				